

# 2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 25 日

所属	サービス創造学部	職名	准教授	氏名	山田 耕生
研究課題	離島における民宿経営の現状～農家民宿との差異に視点を置いた考察～				
研究キーワード	離島、観光、民宿	当年度計画に対する達成度	4.当初の計画どおり研究が進まなかった		
関連するSDGs項目	8.働きがいも経済成長も	11.住み続けられるまちづくりを	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>2年続けての新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、緊急事態宣言および大学での学外活動制限により、予定されていた離島での現地調査が思うようにできなかった。とはいえ、12月（奄美大島）と1月（徳之島）に現地調査を実施し、離島における宿泊施設、特に民宿営業の現状に関するヒアリング、施設見学をすることができた。</p> <p>奄美大島、徳之島の調査を通して明らかになった点は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・離島観光の現状 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ コロナ以前は来島客数が増回傾向にあった。</li> <li>✓ 2泊3日の滞在が主。夏期は家族客、冬期はツアー客が多い。</li> <li>✓ 近年は来島目的が多様化。ハネムーン、スポーツ合宿、島巡り、1人旅など。</li> </ul> </li> <li>・宿泊施設の現状 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 民宿営業は島内出身者の経営がほとんど。</li> <li>✓ Uターン者、Iターン者は宿泊業ではなく、雑貨や喫茶店、ダイビングショップなどを経営する傾向。</li> </ul> </li> </ul> <p>なお、奄美大島において古民家をリノベーションして宿泊施設営業を展開している「伝泊」は離島の新たな宿泊施設の創出という面で非常に注目されており、今後も観察を続けていきたい。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）なし</p> <p>3. 主な経費</p> <p>2021年12月、鹿児島県奄美大島において現地調査を実施した（研究奨励費を使用）</p> <p>2022年1月、鹿児島県徳之島において現地調査を実施した</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>【科研費】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基盤研究（C）：平成30年度～令和2年度、代表、課題名「個人旅行者の受け入れによる農家民泊経営モデルの構築」（18K11873）＊期間延長中</li> <li>・基盤研究（B）：令和3年度～令和5年度、分担、課題名「欧州におけるルーラルツーリズムの推進組織と日本への応用可能性に関する研究」（21H03721）</li> <li>・基盤研究（C）：令和2年度～令和4年度、分担、課題名「我が国ブライダルツーリズムのビジネスモデル化研究」（20K12432）</li> </ul> <p>【その他助成金】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済研究所研究プロジェクト：令和2年度～令和3年度、代表、課題名「訪日外国人旅行者による新婚旅行の特徴と発展可能性に関する考察」＊期間延長中</li> </ul> <p style="text-align: right;">（本文は2ページ以内にまとめること）</p>					